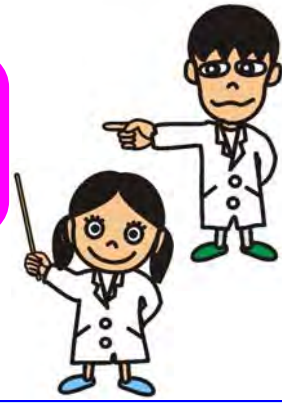









感染症に気をつけよう！





平成26年
【1月号】


横浜市内の感染症 流行状況


感染症	流行状況		説明 【 】は解説付き既刊号
<u>感染性胃腸炎</u>	 大流行	 増加	市全体で過去5年間と比べ最も増加し、16区で警報レベルです。 <u>適切な手洗い・消毒・加熱</u> で予防しましょう。【12月号】
<u>インフルエンザ</u>	 流行	 やや増加	流行期に入りました。学級閉鎖も報告されています。下の解説を参考にして、 <u>本格的な流行に備え</u> ましょう。
<u>RSウイルス感染症</u>	 やや流行	 横ばい	報告の多い状況が続いています。寒い季節に流行する風邪の一つです。予防には <u>手洗い</u> が最も大切です。【10月号】
<u>水痘</u> (<u>水ぼうそう</u>)	 やや流行	 横ばい	警報・注意報レベルの区もあります。例年、冬から春にかけて増加します。 <u>予防接種</u> が有効です。

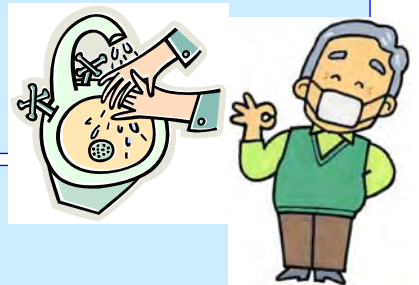
今、気をつけたい感染症 インフルエンザ

 インフルエンザウイルスの感染が原因です。症状は 38℃以上の発熱や咳、のどの痛み、全身の倦怠感(けんたいかん)や関節痛などで、普通の風邪とは違います。例年、1～2月に流行のピークがあり、学校等では集団発生も起きます。特に、**高齢者・小児・妊婦**や、**ぜん息**などの持病があると、**重くなりやすく注意が必要です**。

 患者の咳で飛び散ったしぶき(飛沫:ひまつ)や鼻水には、**ウイルスが含まれている**ので、飛沫を含んだ空気を吸い込んだ人に、**インフルエンザが感染**します。飛沫で汚れた物に触れた手からも、目や鼻の粘膜を通じて感染します。

 感染を避けるためには**手洗い・うがい**が大事です。また、**人混みを避け、規則正しい生活を心がけ**ましょう。**部屋の湿度を保つ**ことも効果的です。**予防接種**も有効です。

 患者になったら他の人にうつさないように、**マスクを着ける**など飛沫が飛び散ることを防ぐ**咳エチケット**を守りましょう。



抗インフルエンザ薬を使って熱が下がっても、他の人にうつす場合があります。症状が出てから5日間が過ぎ、かつ、熱が下がった後2日間(幼児は3日間)は、**学校等を休み**ましょう。

